

研究種目：基盤研究（C）
研究期間： 2007 ～ 2010
課題番号：19530526
研究課題名（和文） ヘンリ・ナウエンの福祉思想—「弱さ」とスピリチュアリティをめぐる逆説—
研究課題名（英文） Henri Nouwen' s Welfare Thought: Weakness as Spirituality
研究代表者 木原 活信 (Katsunnobu Kihara)
同志社大学・文学部・教授
研究者番号 20275382

研究代表者の専門分野：社会福祉学

科研費の分科・細目：社会学、社会福祉学

キーワード：ヘンリ・ナウエン、福祉思想、弱さ、スピリチュアリティ、ソーシャルワーク

1. 研究計画の概要

本研究は、社会福祉領域におけるスピリチュアリティの研究を基底に、ハーバード大学の教授からカナダにある知的障害者施設ラルシュのケアワーカーに転じた思想家、神学者、福祉実践家ヘンリ・ナウエンの「創造的弱さ」「スピリチュアリティ」という概念をとりあげ、その福祉実践思想と実践価値について研究するものである。

2. 研究の進捗状況

ナウエンの福祉思想は、科学主義、パワーと強さに象徴される現代社会の逆説として、人間そのものの「傷つきやすさ」や「弱さ」のもつ神秘性と逆説的パワーを提起しているが、これまでにない新しい斬新敵な福祉の発想と可能性をもっている。

今年度は、これら一連のナウエンの福祉思想の、解析を中心にして評価していった。これらの研究の第一人者であるロヨラ大学のソーシャルワーク学部の Daniel Lee 教授より、昨年に続き特にスピリチュアリティに関する国際動向を踏まえ研究レビューを受けることができた。

まだ十分に熟成しているとは言いがたいが、そして 11 月においては、北米キリスト教社会福祉学会において研究発表を行うことができた。キリスト教社会福祉学会やキリスト教神学の雑誌においても、関連する基礎的議論であるスピリチュアリティやキリスト教社会福祉実践の思想の一旦について研究成果を報告することができた。

3. 現在までの達成度

③スピリチュアリティの概念について、援助の理論のなかで概念定義に予想以上に時間がかかり、ナウエン研究の広範な文献レビューに時間がかかったため。

4. 今後の研究の推進方策

ソーシャルワーク理論との関係で、ナウエンの弱さ思想を援助理論のなかで体系化させていきたい。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

引土絵未、市瀬晶子、山村りつ、田邊蘭、大倉高志、金子絵里乃、木原活信

「自殺予防における援助実践に関する実態調査からの考察—ソーシャルワークの視点

としての“つながり”に着目して」

日本自殺予防学会学会誌『自殺予防と危機介入』30-1 2010, 76-83

〔学会発表〕(計5件)

Katsunobu Kihara, “The challenges of integrating Christian faith and social work practice in Japan: A historical review of Christian spirituality” NACSW(North American Christian Social Work) 2009/10/29
Hilton Hotel, Indianapolis. Indiana, USA

〔図書〕(計6件)

木原活信「社会福祉領域におけるナラティブ論」野口裕二編『ナラティブ・アプローチ』勁草書房 153-169